

# 誰一人取り残さない

子どもたち一人一人には、それぞれ個性があります。誰かにとっては当たり前でも、本人にとっては難しいことも。市内小・中学校では、子どもたち一人一人に合わせてさまざまな支援を行い、「誰一人取り残さない」教育を実践しています。

歌を歌うことが得意  
算数が苦手

整理整頓が得意  
歌を歌うことが苦手

ピアノが得意  
掃除が苦手

発表が得意  
言葉を選んで  
使うことが苦手

旭が丘小学校 児童会の皆さん

## 誰

一人取り残さないことは、SDGsの理念でもあり、文部科学省が目指す令和の学校教育の姿でもあります。

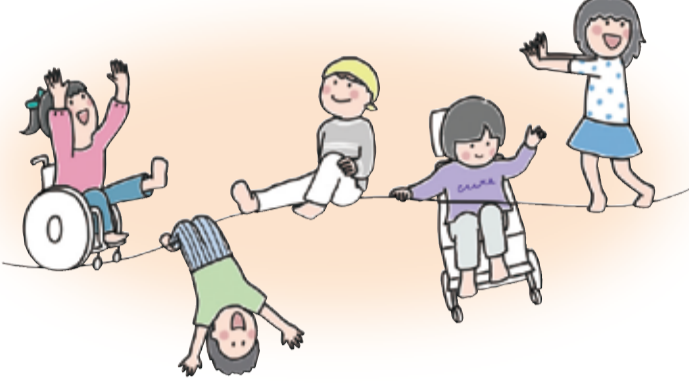
私たちは、さまざまな人と共に暮らしています。人それぞれに、運動が得意、読書が好き、パソコンが苦手、虫が嫌いなど個性があります。

学校では、このような個性だけでなく、家庭環境の違いや障がいの有無、心身の発達の程度など、それぞれの事情がある子どもたちが共に学んでいます。そのような子どもたち一人一人の教育的ニーズを把握し、さまざまな課題を乗り越え、子どもたちの可能性を伸ばしていくことが、これからの学校教育の目指す姿となっています。

市では、多様な教育的ニーズに対応できる学びの場として、例えば不登校児童・生徒のための「適応指導教室」や、外国にルーツのある児童・生徒のための「国際教室」などを設置して教育体制を整えています。



教育指導課 職員



白子中学校 生徒会の皆さん

## 「誰一人取り残さない」学校教育体制



※不登校の子どものために、学習・創作・スポーツ・園芸・調理などの活動を通して、学校生活への復帰や社会的自立への個別支援を行う教室

## 出生から途切れない支援へ！

### すずっこファイル

すずっこファイルは、お子さんの様子や特性、健診の結果、保育・教育の記録、医療情報など、大切な情報を記録しまとめることができるファイルです。また、お子さんに支援が必要な場合は、保育園(所)・幼稚園や学校と一緒に支援計画を作成。支援の情報を就学先や進学先へ引き継ぐことで、途切れない支援につなげます。

妊娠届出時に配布しています。生まれてからの成長記録をまとめることができますので、ご活用ください。



子ども家庭支援課 職員

## 一人一人を大事にする特別支援教育



稲生小学校通常学級での授業

## 子

ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行う特別支援教育の推進が求められています。

特別支援教育の視点から教育を進めていく

ことが、「誰一人取り残さない」教育として、障がいのある子どもだけでなく、学習面や生活面に「困り感」のある子ども、さらには全ての子どもにとって、良い効果をもたらすと考えられています。

## 特別支援教育で、安心できる学校や学級に

稲生小学校の今年度の合言葉は「あんしん」です。この合言葉を4月の始業式で全校児童・教職員に伝えました。その後も「安心できる学校・学級になっているか」ということを常に問い続けてきました。

一人一人を大事にすることで、安心感が生まれます。一人一人を大事にする教育は、当たり前だと考えています。目の前の子どもを見て、その子が何が得意で何が苦手なのか、何に困っているのかを把握して、子どもの特性に応じた支援を考える必要があります。

このような支援は、全ての子どもたちに有効な手立てです。この当り前の教育「特別支援教育」を学校全体で推進しています。



稲生小学校校長  
みづぐち しほ  
溝口 忍さん

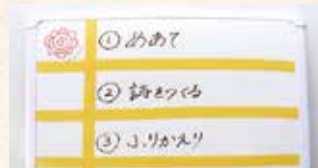
### 特別支援学級

特別支援学級では、児童・生徒一人一人の障がいの状態や特性、心身の発達の段階などに応じた授業を行っています。



### 意欲を引き出し、一人一人が輝ける授業

あらかじめ授業で取り組む内容や伝えたいことを視覚化して、子どもたちが見通しを持って安心して学べるようにしています。



◀授業の流れを順序立てて視覚化。できた項目に花丸を付けることで、児童もやる気に



稲生小学校教諭  
はた きの  
畑 真利乃さん

### 通級指導教室

通級指導教室では、学校生活や学習において特別な教育的ニーズのある児童・生徒に、通常学級とは別に、個別や少人数グループでの教育支援を行っています。



### 子どもの成功体験を増やす授業

集団の中で十分に力を発揮できない子どもたちをサポートしています。子どもたちが「楽しい・できる・ほめられる」ように教材や関わり方を工夫し自信を持つことで、自分らしく、いきいきと学校生活を送れるように考えています。



◀ボール運動など体を使った学習を取り入れて体幹を鍛えることで、児童の集中力や学習意欲の向上につなげています。



飯野小学校教諭  
ひなこし まなみ  
松越 真美さん

### 介助員として働いてみませんか

市内小・中学校で活動する介助員。特別支援学級で、子どもたちの学習活動のサポートを行っています。そのほかにも、子どもたちの学校生活上の介助など、役割は多岐にわたります。

子どもへの支援教育に理解と熱意があれば、特別な資格は不要。介助員として働くことを希望される方は、学校教育課へ

※令和5年度の介助員を募集しています。詳しくは、14ページをご覧ください。

子どもの成長に喜びを感じます。ぜひ一緒に働きましょう！



神戸小学校 介助員の皆さん

今回の特集に関するご意見・ご感想は

教育指導課 ☎ 382-9028 ☎ 383-7878 ✉ kyoikushido@city.suzuka.lg.jp

学校教育課 ☎ 382-7618 ☎ 382-9054 ✉ gakkokyoiku@city.suzuka.lg.jp

子ども家庭支援課 ☎ 382-9140 ☎ 382-9142 ✉ kodomokateishien@city.suzuka.lg.jp